

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2012.7.1

No.95

「聖書は信頼できるか」の二回目、「新約聖書編」の続きです。

新約聖書は二千年ほど前に書かれました。日本での最初の本と言われる「古事記・日本書紀」が書かれる七百年も前のことです。また他の書に比べて桁違いの写本が残る新約聖書ですが、それらの写本を比べると若干の違いがありません。その多くはどこが違うかというかがはっきりしていません。それらを総合すると九十八・三%の部分が同じです。実は、人間が写本していくことを考えるとこの数値は「奇蹟的」なものなのです。他の古代の文献でここまで多くの、またここまで違いのない写本をもっている書はないのです。また、そのわずかな違いも、聖書が語る根本的な思想を変更させるような箇所はありません。さらに、私たちが現在使っている聖書には「異本ではく」とか「古い写本ではく」とかなり親切に欄外に注があります。

これまで聖書に不信感を抱いてきた人はいくらかでもいます。ですから殊更に聖書は厳しく調べられてきたのです。その研究の結果がこれです。「私たちは聖書の原本と同じものを持っていく」と確信を持って言うことができます。

### Ⅲ. 聖書の記述の正確性

次に聖書の中身に入っていきます。私たちが

## part II

# 聖書は信頼できるか？



使っている教科書などは、特に理系のものは十年前のものは使いたくならないと言われます。前の考えが否定されたり、新しい発見を付け加えなければならなかつたりするからです。では、二千年前に書き終えられた聖書に間違いは含まれていないのでしょうか？聖書自体は「聖書は神のメッセージが記されているので、間違いはなく、時間が経つても書き換える必要はない。」と宣言しています。

「…この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、…この書の預言のことばを聞くすべての者にあかします。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。」(黙示録)

ということは聖書の記述に間違いがあれば聖書の権威は地に落ちます。そしてこのことに多くの人が挑戦したのも事実です。

### 1. 科学的正確性

例えば「日は昇り、日は沈む」(伝道者の書一章五節)という表現が旧約聖書にあります。それを「科学的に見ると間違い、だから聖書は信用ならん。」という人たちがいたのです。これは私たちから見た観点で自然を描写しているものであり、天体についての科学的説明の中で言われているのではないことは前後の文脈を見れば誰でもわかります。

一方、原語で注意深く調べると、「科学的な

間違い」と思われていたことが、しばしば間違いではなかったと判明することもあります。実は、創造主の霊によって導かれた記者たちが「当時の常識」を越え、自分たちが理解していることよりもさらに正確な科学的事実を聖書に記すようになったということさえあるのです。例えば、イザヤ書四十四章二十二節には次のようにあります。

「主は地をおおう天蓋の上に住まわれる。地の住民はいなごのようだ。…」

ここの「天蓋(てんがい)」という言葉へブライ語「ハグ Khug」は他の箇所では「円を描いて」とか「円を描く」と訳されており、地球の天体の形が「丸い」いうことの示唆と考えられています。また、伝道者の書一章六、七節には地球の水の循環にしているの示唆があり、三千年前当時の科学的知識をはるかに上回っています。

「風は南に吹き、巡って北に吹く。巡り巡って風は吹く。しかし、その巡る道に風は帰る。川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れ込む所に、また流れる。」

このような箇所は数多くあり、そのような観点で聖書を研究しているクリスチャン科学者たちもアメリカにはかなりいます。聖書は科学を教える書物ではありませんが、科学的な事柄を使って話を展開しているときには、正確な科学的知識が言及されていることが判明しているのです。

僕は中一の時に勉強した「地理」がとても苦手で、社会が嫌いになっていました。でも、中二になって「歴史」を学んだときにその思いは変わりました。年号を覚えるのが大変でしたが、歴史は暗記が中心で、それには自信があつたのです。どんどん覚えていくうちに好きになつていきました。そして、今度は社会が得意の教科になりました。

中三になり「公民」の勉強が始まりました。政治の仕組みや法律などの勉強はややこしくてむずかしかったですが、やはりこれも暗記が中心なので楽しくできました。

ニュースなどを見ると公民で習った言葉がたくさん出てきて、よく理解できました。特に政治の仕組みは公民を習う前は何も知りませんでした。内閣の仕事や衆議院、参議院などいろいろなことが学べてよかったです。また、昔からEU(欧州連合)は知っていましたが、NAFTA(北米自由貿易協定)やASEAN(東南アジア諸国連合)などがあることは知りませんでした。他にも裁判には三審制というものがあり、民事裁判や行政裁判、刑事裁判があることなども初めてわかりました。

また公民では世界の機関も勉強します。WHO(世界保健機関) UNESCO(国連教育科学文化機関) ILO(国際労働機関)なども習いました。それぞれの機関の役割もわかったので新聞などで出てきたときに、その記事の意味が理解でき、とても便利です。

公民を習った後から新聞、ニュースなどメディアの見方が変わりました。これからも続けてがんばっていきたいと思います。

こんなことしました！ 行事報告

六月

七日

合同公文教室

「親子のコミュニケーション  
学び③」

八〜十五日 特別集会チラシ配布

十六日

東住吉区民ホール

コンサートと講演会参加

十七日

祖母退院パーティ

二十六日

音楽教室



→石垣島から送ってきた完熟パイナップル甘さたっぷり！下のシフォンケーキはRの最近のヒット作！



地理の学習

私は四月から中学生に進級し、「地理」の勉強を始めました。初めは、緯度や経度など、聞いたことのない言葉などでできて覚えるのが大変だと思いましたが、やっていくうちに楽しくなりました。

少し前から、大陸一つ一つを詳しく勉強し始め、気候によって、食べ物、衣服、家などが異なっていて、日本では全く見られない家などが多かったです。

世界各地の住居には、その土地の気候や生活習慣にあった材料が使われるなどの工夫もしていて、感動しました。教科書に、「ロシアでは、外に洗濯物を干すと水分が凍ってかたまりになる」と書いてあり、「大阪では考えられない」と思いました。

北半球と南半球では季節が逆になるので、初めて、南半球ではクリスマスが真夏に来るとわかってすごくびっくりしました。私たちが身近に使用しているもののほとんどがアジアで作られていることを知りました。

集会上、韓国、ネパール、パキスタンやカンボジア、モンゴル、シンガポールなどから訪問されることも多いです。また機会があれば、積極的に話しかけてみたいです。教科書で学んだことを詳しく教えてもらいたいのです。これからも、世界や日本の産業、住宅、人口などを調べ、国を知っていききたいです。

編集後記

五月・六月、親族の中に入院したり、けがをしたりするものが続てきました。いずれも大きな病気や怪我ではなく、守られて感謝でした。これからますます介護や生活支援の必要が出てくることでしょう。